

福間南小学校区および福間中学校区の校区再編素案決定の経過

1. 校区再編に関するアンケート結果

令和5年10月に、福間南小学校および福間中学校に通う児童・生徒とその保護者を対象に校区再編に関するアンケートを実施した結果

- ◆校区再編に過半数が賛成。
- ◆自身が住んでいる地区が、校区再編の対象となった場合、小学生とその保護者は約9割、中学生とその保護者は約8割が受け入れられないと回答。

2. 校区再編のシミュレーション

令和8年4月に校区再編を実施した場合の児童・生徒数の推計、通学距離、受入先の学校施設の状況をシミュレーション。別紙シミュレーション結果参照(福間南小学校区ケース①②③、福間中学校区ケース①②③)。

◆福間南小学校区

【児童数】福間南小学校は、①、②で約200人減少、③で約80人減少。

神興東小学校は、①で約200人増加、②、③で約80人増加。

上西郷小学校は、②で約120人増加。

【通学距離】①、②、③いずれの場合も長くなる。

【受入先学校施設】①教室や給食供給能力の不足から受入は難しい。

②物理的には可能であるが、学校規模が2倍となり、プレハブの建設や施設の改修など多額の費用がかかる。

③約2,500万円の改修で、物理的に受入可能。

◆福間中学校区

【生徒数】福間中学校は、①で約30人減少、②で約100人減少、③で約160人減少。

福間東中学校は、①で約30人増加、②で約100人増加、③で約160人増加。

【通学距離】光陽台地区は短くなるが、四角地区、日蔭野5区は長くなる。

【受入先学校施設】①約1,900万円の改修・整備で、物理的に受入可能。

②R13年度以降、給食の供給能力が不足する。

③R9年度以降、給食の供給能力が不足する。

3. 校区再編素案の決定

- ・校区再編には過半数が賛成しているが、実際に自身が対象となると受け入れられない人が、小学生とその保護者は約9割、中学生とその保護者は約8割。
- ・福間南小学校区については、受入先の学校施設の状況から、【③光陽台地区を神興東小学校区に変更】することは可能であるが、通学距離が長くなるなど、光陽台地区の児童にだけ負担を強いることになる。
- ・福間中学校区については、受入先の学校施設の状況から、【①光陽台地区を福間東中学校区に変更】することが可能であり、通学距離も短くなる。

以上のことを踏まえ、下記のとおり、市教育委員会の素案を決定した。

【福間南小学校区】校区再編を行わない。

【福間中学校区】次の行政区に、福間中学校もしくは福間東中学校のどちらかへの進学を選択できる、校区選択制を導入する。

※対象行政区：光陽台1区、光陽台2区、光陽台3区、光陽台南区